

研究プロジェクト名

内生的な比較優位の理論に基づく 国際分業と国際間要素移動の理論的研究



Theoretical Studies on International Division of Labor and International Factor Movements Based on the Theory of Endogenous Comparative Advantage

大学院経済学研究科・教授

多和田 眞
Makoto Tawada



たわだ まこと プロフィール

1971年 名古屋市立大学経済学部 卒業
1975年 名古屋市立大学大学院経済学研究科 修士課程 修了
1980年 ニューサウスウェールズ大学大学院経済学研究科 博士課程 修了
1981年 ニューサウスウェールズ大学経済学博士号取得

研究経歴

1980年 東京都立大学経済学部 助手
1981年 兵庫県立神戸商科大学商経学部 講師
1982年 兵庫県立神戸商科大学商経学部 助教授
1984年 名古屋市立大学経済学部 助教授
1992年 名古屋市立大学経済学部 教授
1999年 名古屋大学経済学部 教授
2000年～ 名古屋大学大学院経済学研究科 教授

海外研究歴

1985年 ニューサウスウェールズ大学商学部 招聘研究員
1991年 ニューサウスウェールズ大学商学部 交換研究員
1994年 フロリダ大学経済学部 客員研究員
1995年 ミュンヘン大学経済研究所 招聘教授
2000年 南京大学商学院 招聘教授
2003年～ 南京大学商学院 客座教授

研究分野

1. 国際貿易の理論的研究
(特に比較優位と貿易利益の一般均衡分析、戦略的貿易政策の理論分析、および空間経済学の貿易理論への適用)
2. ミクロ経済学 (特に企業行動の理論的分析)
3. 地域経済学 (特に産業クラスターの実証的分析)

受賞歴、レクチャーシップなど

2001年 日本地域学会論文賞
2003年 日本地域学会著作賞

私は経済理論のミクロ経済学をベースに国際貿易の理論的研究をこれまで一貫して行ってきました。ニューサウスウェールズ大学における大学院時代は生産技術を制約条件として、多数の財を生産する場合のその組み合わせの可能性をあらわす集合である生産可能性集合の性質とそれが国際貿易の理論的分析に果たす役割についての考察を行いました。この成果はいくつかの論文として公刊され、その後、当時の私の指導教授

であった Murray C. Kemp 教授の編集により、Academic Press から *Production Sets* として出版された本の中に収録されました。

日本に帰ってからは、東京都立大学、神戸商科大学、名古屋市立大学において、国際貿易理論における代表的な比較優位論であるヘクシャー・オリー分析を外部経済、公共財、天然資源、不完全競争などが存在する場合に拡張して分析するという研究を行ってきました。これらの一連の研究

成果は、*Production Structure and International Trade* として、Springer Verlag から出版したモノグラフに収めることが出来ました。1990年代に入ってから、日米貿易摩擦の流れの中で研究者の関心をあつめたゲームの理論を応用した戦略的貿易政策論の分析、日本型企業と類似性を持つと考えられる労働者管理企業の企業行動の分析などを行ってきました。そして近年は環境問題や国際的労働移動を導入した国際貿易理論の分析を行ってきています。

特に本研究プロジェクトは、これまでの研究成果を活かしながら、新たな国際貿易の比較優位論の展開を行おうとするものです。比較優位の理論とは、例えば技術や生産要素の賦存状態に差がある2国間で貿易をすると、どちらの国がどの財を輸出するかという問題を扱うものです。さらにこの問題は、それぞれの国は貿易によって利益を得られるかどうかという問題に発展させていくことも出来ます。上述したように、すでにヘクシャー・オリーンのモデルに新たな側面を加えることで比較優位論の拡張を行ってきましたが、これらは国家間の差異を外生的に与えられたものとして扱っており、国家が戦略的に比較優位を作り出していくという能動的な側面の分析がなされてきませんでした。そこで本研究プロジェクトでは、比較優位を内生的に形成するメカニズムの中で考察したいと考えています。この分析を本格的に行うためには政府の戦略的行動を考慮する必要があり、多数財市場のモデル、すなわち一般均衡モデルの中にゲーム論の導入を行うことが必要になります。これまでの産業組織論や戦略的貿易政策論でのゲーム論の応用は1つの市場のみに焦点を当てた部分均衡分析に限られており、本研究では戦略的政策を一般均衡分析に拡張するという問題にも取り組んでいきたいと思っています。

名古屋大学に赴任して以来、集中的に研究に取り組むことがほとんど出来ませんでした。この機会を利用して、大きなテーマに挑戦して、まとまった研究成果を挙げることができればと思っています。また、90年代以降の一連の研究成果について、できればこれを機会に著書としてまとめることができればと思っています。

最近では単に国際貿易の理論的研究にとどまらず、国際貿易論と地域経済論を融合させた空間経済学にも強い関心を持って取り組んでおり、さらにその実証的な研究である、産業クラスターの研究も積極的に進めてきています。これらの研究についても関連の研究者との共同研究によって、今後精力的に取り組んでいきたいと思っています。

